

王様の椅子

shipbuilders

鈴木課長がラクダに乗って砂漠を進んで行く。

鈴木課長は王様の娘と結婚するため、終わりのない話をもって宮殿へ行くところ。

本屋で読んだ海の向こうの民話で予習済み。

むかしむかしあるところに、

たくさんのトウモロコシの粒をもったひとりの男がいた。

そこへイナゴがやってきて、トウモロコシの粒をひと粒もっていく。

次のイナゴがやってきて、またひと粒もっていく。

また次のイナゴがやってきて、やっぱりひと粒もっていく。

イナゴがやってきて、トウモロコシの粒をひと粒もっていく。

イナゴがやってきて、トウモロコシの粒をひと粒もっていく。

イナゴがやってきて、トウモロコシの粒をひと粒もっていく。

来る日も来る日もこれのくり返し。

王様は言った。

おまえの話には終わりが無い。娘を連れてゆくがよかろう。

鈴木課長が宮殿の近くにさしかかった時、

悪魔が通りの向こうから歩いてくるのが見えた。

悪魔は鈴木課長を見つけるとこう言った。

王様はもうその話を知っている。他の話を考えなければ。

悪魔は鈴木課長にそっと耳打ちをした。

宮殿にたどり着いた鈴木課長は王様の前に通された。

王様に深々とお辞儀をすると鈴木課長は空を見上げて話し始めた。

いろいろなものに姿を変えてゆく雲。

魚から馬、馬から猿、猿から人、人から車。

次から次へと果てしなく姿を変え続ける雲、その終わりのない話を。

車からロケット・・・ロケットから・・・

ふと気付くと風が止まりかけていた・・・ロケットから・・・

宇宙ステーション、宇宙ステーションから・・・

王様は目に涙を浮かべ、あくびをするとこう言った。

「おまえの話は間が空きすぎる」そして家来に告げた。「こいつを死刑に」

一週間後、天使から鈴木課長の最期を聞かされた佐藤部長が宮殿にやってきた。

佐藤部長は天使に言われたことを思い返した。

ひとつの雲のことばかり話すからだめなんです。

空に浮かぶいろんな雲について話すんです。

こっちの雲は鳥。そっちの雲は花。あっちの雲は・・・

王様の前に通されると佐藤部長は空を見上げた。
雲ひとつない青空。どこまでも澄み切った青い空。
王様は言った。
「こいつを死刑に」

参考文献

『アフロ・アメリカンの民話』

ロジャー・D・アブラハムズ 編／北村美都穂 訳 青土社